

I.はじめに

沖縄県は多くの離島からなる県である。その中でも宮古島、石垣島は地域活性化により、観光客、移住者は年々増加し、沖縄県の離島では1位、2位の人口となっている。その一方で人口3位の久米島は地域活性化を盛んに行っているにも関わらず、観光客は増加しているが、人口は減少しておりその現象にはなにか原因があるのではないかと考えた。

本研究では、島（行政）の取り組みの状況を把握するとともに、島民の意見をもとに改善策を考えていきたい。

II.研究の目的・動機

観光業が盛んな沖縄県は特に離島も人気が高まっていると感じる。しかしながら、離島の中でも久米島は、本島から船で気軽に行けるにも関わらず人口の減少が進んでいる。そこで、この問題を解決するための島(行政)の取り組みや、島民の意識を調査することで、久米島をはじめとする離島の人口減少への改善策を考えていこうと思う。

III. 研究方法、地域、期間

(1) 研究方法

①文献調査

②主に島民への聞き取り調査（久米島祭りにて実施）

(2) 地域

沖縄県島尻郡久米島町

(3) 期間

2019年8月18日

IV. 結果

島民32人、観光客5人に聞き取り調査を行った。

島民の意見

島の不便な所や課題として1番多く上がったのは、病院が少ないという意見である。現在、久米島には総合病院が1か所、診療所が1か所、歯科が2か所ある。総合病院や診療所があるものの、曜日によっては行われていない診療科があり、島民にとっては不便である。その為、受診するためには本島へ行かなければならないこともあるが交通費が高いのが現状である。

2番目に多かった意見として、買い物に関する不便さである。その理由としては、スーパーやコンビニエンスストアが身近にないことで、買い物が手軽にできない。さらに台

風が来た際には、食品等の品物が届かないことがある。ネットショッピングする際にも送料等のコストや届くまでの時間がかかってしまう。

その他にも学童保育等の子どもを預けることができる施設がなく、子どもが遊べるような公園なども少ないこと、バスや飛行機の便数が少ないといった交通面での意見も見られた。一方で、島の不便な所はないという 60 代～70 代の男性の意見もあった。

人口減少が進んでいるという事について知っているかという質問については、回答した島民全員が認識していた。また、一回島を出たことがあるかという質問に対しては 22/32 (5 名は観光客) があると答えた。その理由として、雇用がないため、久米島から出て働く人や専門的な学校がない事から、本島などに出ていく人が多い。さらに、女性は嫁ぐと出ていくことも意見として挙がった。

現在久米島では、離島留学などの取り組みを行っていることもあり、県外からの移住者が増えている。その点で活性化につながっているが、島民からの意見では、若者の遊びや場所や学童保育などの子育てを行う上での環境、雇用を増やすなどの就職面の改善を行い、住みやすい環境づくりを行う必要があるという意見も多く上がった。

久米島の魅力として挙げられたのは、島民、観光客共に久米島で有名なハテの浜など自然が豊かなこと、食べ物が自給自足できること、人が温かく犯罪などもない為安心して過ごせるなどの意見があった。島民の中にはその魅力をもっとアピールすることで活性化につながるという意見もあった。

その他、観光客へ「今後住んでみたいか？」という質問に対しては、「はい」という意見が半数以上を占めたが、中には住環境の問題が気になるという意見もあった。

V.VI. 考察分析 今後の展望

島（行政）では、海洋深層水での雇用の拡大や、島全体に Wi-Fi を導入する等、いくつかの取り組みを行っていることが分かった。しかし、島民に聞き取り調査を行ってみると、その取り組みについて、さほど認知されておらず、それよりも環境を充実させることで住みやすいまちづくりを望んでいると感じた。島民が特に不便に感じている事は、職種や病院が少ない事、教育環境についてであった。若年層の人口減少が著しいのは、このような教育環境が大きく関わっていると考え、図書館や児童館の建設など、そこを充実させることで若者が住みやすい街となり、次第に島全体も盛り上がってくるだろう。しかし、島内だけで職種を増やすことには限りがあると思う。そこで学校教育の中で、企業の仕方等の具体的で実践的なキャリア教育を充実させていく必要があると考える。さらに、魅力的な島にも関わらず、島民はそこをあまり理解していないので、もっと自分たちの島について知り、魅力ある島に誇りを持てる活動を行うことは地域活性化に繋がり、若者が盛り上がる事で島全体が盛り上がっていくのではないかと考える。

VII. 終わりに

本研究を通して、久米島の課題や島民の島への関心の有無、久米島の魅力について深く知る事ができた。久米島を住みやすい環境にするため、公共機関の改善と若者が久米島の魅力を引き出し、久米島全体を盛り上げていくことが問題解決につながると考えた。また人口増加はその地域だけでなく国全体で考えるべき課題もあり、今後、どのように人口増加を図っていくのか考えていきたい。

最後に、今回このような貴重な研究の機会を与えてくださった地域研究所の方々、アンケートにご協力してくれた皆様に、感謝申し上げます。

VIII. 参考文献、調査協力

- ・折戸晴夫 秋山綾「沖縄県久米島の観光振興における若者の意識に関する考察」 玉川大学 学術リポジトリ（最終閲覧日 2020 年 1 月 15 日）
- ・ <http://www.town.kumejima.okinawa.jp/categories/chosei/jinko/>
- ・ <http://pointpyuru.co.jp/shinsousui/>「久米島海洋深層水についてポイントピュール」
- ・ https://www.soumu.go.jp/main_content/000287197.pdf「久米島地域経済活性化プロジェクト」
- ・ 聞き取り調査協力者の皆様

IX. 担当教員コメント

4 月から問題意識をもって、小学校以外の場所におけるこどもの暮らし、過ごし方、またその影響を受ける子どもたちの発達について学んできました。本研究を通して、実際に自分たちが直接地域へ足を運び、調査をすることで文章を読むだけでは理解できないことを声として聞き、まとめることができました。どのような課題解決があるのか、自分たちに何ができるのかなどについては、まだ浅学な部分があるため、これから卒業までの課題として取り組むことを期待しています。

2019 年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ

「久米島の人口減少と地域活性化」

こども文化学科

阿波根奈緒 仲地優

知念弘樹 久高優菜

(担当教員 松尾理沙)